

もう1か月前になるが、大きな地震があった。ここ約11年の間で3回目の出来事である。11年前は、1000年の一度の大地震などと言われた。しかし、10年も経ってから2月にまた大きな揺れがあり、今度は3月にまたまた大きな揺れがきた。いずれも震度5から6の世界である。もう誰も1000年に一度などとは言わなくなったように思う。明らかに日本は違った段階へと進んでいるように感じる。

以前は、震度6などと言ったら起震車でないと経験できない揺れだった。それが、今では身近になってしまっている。もはや震度4では驚かない。ほとんど被害が出ないことも経験則からわかっている。

震度5となると、さすがに焦る。自宅の被害状況など確認する間もなく学校へと馳せ参じる揺れである。それが、震度6となると、命の危険が伴う。家屋の被害も想定される。学校の校舎等も無事とはいかない。

我が家の場合は、11年前よりも1年前、そして今年の3月と被害が大きくなっている。東日本大震災のときには、本棚は倒れたが、食器類は無事だった。1年前は、再び本棚が倒れ、本やファイルが散乱した。おかげで、復旧作業をしながら片付けが進んだ。だが、このときは、物を捨てたというよりは、使いやすいうように出しやすいうように配置を変えただけだった。

あれから1年ほどで、みたび本やファイル、荷物が散乱した。コップなどもたくさん割れた。その状況を目にしたときは、もはや片付けようという気力がわいてこなかった。

みたび倒れた本棚は、その機能を維持できなくなり、ついにその役目を終えた。思えば、三度も震度5以上の揺れを味わわせてしまい、申し訳ないことをした。家人と二人で解体し、あらかじめクリーンセンターへと運んだ。お疲れ様でした。

幸か不幸か、このタイミングで引っ越しをする長男のアパートから本棚が届いた。先代よりも収納スペースは劣るが、丈夫さは持ち合わせている。ありがたい限りである。ここで、考えた。「そろそろ本気で捨てるしかないか」3連休の丸々2日間を使って、一番被害がひどい書斎、次に長男の部屋、そして長女の部屋と、次から次へと物を捨てた。

今までは、この作業ができなかった。踏ん切りがつかなかった。三度目の正直というべきなのだろうか。今回は「もう使うわけがない」と思い切ることができた。これも震度5以上のなせる業なのだろうか。物の多さにこりごりで、もう四度目は嫌だと頭も体も思っているのかもしれない。怪我の功名とも言える。

我が家には、いざという時の避難バッグがある。今回も家人が素早く避難バッグを車に運んでいた。備えあれば憂いなしとはいいが、震度6の世界では憂いなしとはいかない。またいつ大きな揺れがくるかわからない。また3月なのだろうか。さらに物を捨て片付けが進んでしまう機会がありそうで怖い。寺田寅彦が言った「天災は忘れたころにやってくる」は、もはや死語なのだろうか。